



漂流したごみを分別する白糠高校の生徒たち

TOPIC

4

## 漂流ごみについて考える

5

12

### 白糠高校で「漂流ごみ調査」

白糠高校の2年生20人が「総合的な探求の時間」の一環で漂流ごみの分別調査を行いました。生徒たちは白糠漁協前で、漁網や釣り糸、空き缶などのごみを分別。その後、学校で「ごみはなぜ漂着したのか」「減らすためにはどうしたらいいのか」を話し合いました。

木村叶<sup>かなう</sup>さんは「こんなにごみが多いとは思いませんでした。漂流ごみの問題は、自分には関係ないというのではなく、生活のことや環境のことを考えて見る目を変えることが大切だと思います」と話していました。

TOPIC

5

## 郵便制度 150年記念

5

14

### 日本郵便が町に特殊切手を寄贈

日本郵便北海道支社から町に特殊切手「切手趣味週間・郵便創業150年」が寄贈されました。

切手は、1871年(明治4年)に郵便制度が実施されてから今年で150年を迎える記念に発行されたものです。

この日は、白糠郵便局の藏本博幸局長が役場を訪れ、棚野町長に特殊切手シートを手渡しました。

藏本局長は「150年を迎えることができたのは皆さんのおかげです。これからも地域に愛されるよう努めていきたい」と話していました。



特殊切手シートを手渡す藏本局長(左)



平仮名の勉強をする庶路こども園の5歳児

TOPIC

6

## 園児の「もっと学びたい」の気持ちを育む

5

17

### 幼児教育サポート事業開始

町では幼児期から「平仮名の読み」や「数と計算」などの早期定着を目的に、認定こども園で専任講師が授業を行う幼児教育サポート事業を行っています。

授業の1回目となるこの日は、庶路こども園の年長組(5歳児・15人)11人がマジックボードやスケッチブックを使って平仮名を読む勉強をしました。

佐藤咲愛<sup>さくら</sup>ちゃんは「楽しかった。もっとやりたかった」。講師の猪爪真央<sup>まな</sup>さんは「勉強が楽しいと思ってもらえるような授業をしたい」と話していました。